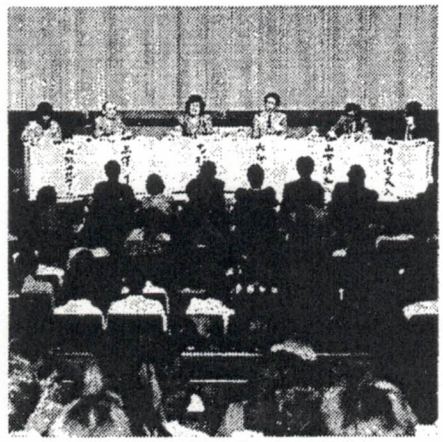
朝日新聞　　第3種郵便物認可

北欧と日本　なぜ格差

真の豊かさへの挑戦

国際シンポジウム



シンポジウム「真の豊かさへの挑戦」の討論を聞く満員の参加者たち＝東京・有楽町マリオンの朝日ホールで

国際シンポジウム「真の豊かさへの挑戦」（朝日新聞社、朝日新聞厚生文化事業団主催）が東京・有楽町の朝日ホールで十四日、開かれた。この経済大国に住みながら国民は安心して年を取れない。ハンディを持った人々が人間らしく暮らせない。なぜできないのか。こうした疑問を胸に集まった満員の聴衆は、北欧の現状報告に聴き、「福祉国家建設は一人ひとりの市民がどれだけの代価を払うかという覚悟と決意の問題」という意見に大きくうなずいていた。

冒頭、デンマーク・ホルベック市の高齢福祉課長インガ・リス・ラウアセンさんとコペンハーゲン大学の伊東敬文さんが、「私たちの町にネタキリロージンがいないわけ」を報告。人口三万一千、老人一四％の町で、人口あたり日本の二十倍余のホームヘルパーがいてこそ、それが可能になったと語った。

スウェーデン・ストックホルム市にあるハールンダ・ダーグセンター所長のジョイ・ペニングさんとスタッフの石井麻子さんは、心身に badly ハンディを持った人々が、自分で選んだ仕事や余暇を心から楽しむ姿をビデオにおさめ、大型スクリーンで紹介し、だれもが疎外される社会が地球上に存在していることを実証した。

基調講演を踏まえて、大熊由紀子朝日新聞論説委員の司会でシンポジウムが進められ、まずオペラ歌手の恵村年子さんが災害の母を病院にあずけた経験を語り、日本の人々がお年寄りを見捨てている現実を批判した。

「そこは一般病院の老人病棟で、夜徘徊（はいかい）する方は手足を固くベッドに縛りつけられ、母は入院一カ月でみるみる意識もろうの寝たきり状態になっていきました。私は歌を捨ててでも母を世話する覚悟で退院させました。その時傍のベッドの人が全身の力を振り絞って私の手をにぎりしめ『どうか私も連れて出て』と泣きながら言いました。その悲しい声と姿が、五年たった今でも、頭から離れません。自宅に戻った母は一年後にはおむつもとれ立って歩けるようになりました」

障害運代表幹事の三沢了さんは狂いす生活の立場から発言。

「日本では障害者は家を借りることも難しく、不動産屋を百軒回った友人もいます。北欧で難病の独身男性が、施設にいたらかかる費用にやや上乗せした金額を市から受け取り、自宅で自分らしく生きている様子を見て感銘を受けました」と言い、「生きている間に本当の豊かさを味わいたい」と語った。

福祉施設の理事長を務める山下勝弘さんは、日本の福祉はメニューはあるが心がかよってない、こう指摘した。

「日本では社会福祉側既はおかみが用意し、必要なときおねだりするものと思われているらしい。人々はふだんは無関心で、自身に降りかかった時だけ批判します。『自分たちでつくるもの』という意識が定着していないのです。自分たちが知恵を出し、自分たちの手で作り上げる福祉にしなくては真の豊かさは実現しないでしょう」

元・厚生省医務局長で現在ハンセン病の協会の理事長の大谷藤郎さんは、「北欧の福祉には『参った』という感じ」といい、精神病や難病の患者さんについての側面の遅れは、特に著しい、と派えた。

「どうして日本とこんなに差ができてしまったのか。戦後日本の国是は人権と民主主義。少なくとも厚生省は社会保障の充実を大切にしてきました。ところがオイルショックで税収が激減し、予算の二割を占める社会保障予算にしわ寄せがきた。中曽根内閣は行政改革で医療と福祉の見直しを迫った。しかし、もっと国民の納得するような論争をすべきだったのではないか。関西大学経済学部の二円光弥教授の計算ではデンマークなみの老人福祉を実現するための追加費用は四兆五千億円弱だという。いまの予算規模からみて、決して不可能な金額ではない。検討する価値があります」

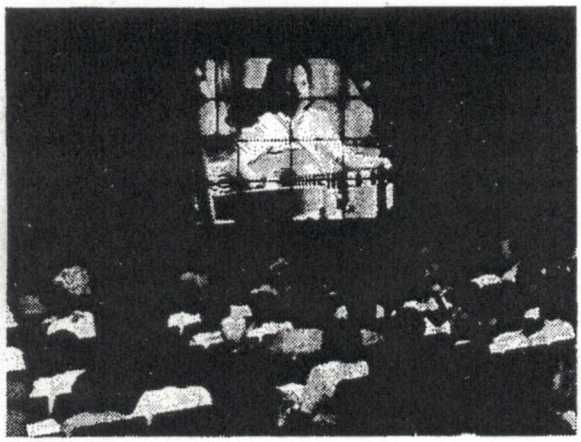
スウェーデンの政治に詳しい早稲田大学教授の岡沢憲芙さんは「ストックホルム大学の教授の給料は私の二分の一以下。税率は三倍以上。なのに別荘を持ちヨットを持っているのはなぜか」と問題提起。

「財布を預かりましょう。その代わり人間らしい生活を自治体と国が保障します、というのが北欧の仕組み。日本は、みんなのポケットに現金を残しましょう。その代わり生活は役人で勝手にやりなさい。その差です。財布にキャッシュを入れておきたい。サービスも欲しい。これは無責任。ただ日本では財布を政府に預けたら政治家が何をするか分からない、と国民は思っている。これは政治への信頼の問題でもあります」

そして北欧の社会福祉が「見える政治」の中ではぐくまれたこと、平和、自由、安全、安心感、平等、機会均等、それに連帯と協調の精神が根底にあることを説いて、こう結んだ。

「日本は経済成長を国家の第一優先順位にして、それを効率よく行うために競争原理を大切にした。これは国家としての豊かさを保証してくれるけれどメンバー一人ひとりの豊かさを保証してくれる論理じゃなかった。そのことに気づくべき時です」

財布預け、安心と連帯手に　北欧
競争社会、金は各自の懐に　日本



大型のビデオスクリーンで海外の障害者の生活ぶりも紹介された（音楽祭の一シーン）

おそうざいのヒント

ピクルスとチーズを合わせて牛肉で巻いて焼きます。

牛の赤身薄切り肉四枚を肉たたきでたたき延ばします。ニンニク一片をすりおろしてサラダ油大さじ三と混ぜ「ニンニ